京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（4 年計画の 1 年目）

１．研究課題

隋唐石刻資料の研究

Research on Stone Inscriptions of Sui and Tang Dynasties

２．研究代表者氏名

倉本　尚徳

KURAMOTO, Hisanori

３．研究期間

2023 年 4 月-2027 年 3 月(1 年目)

４．研究目的

本研究班は、これまで本研究所で組織されてきた漢代から北朝までの石刻拓本研究班の伝統を継承し、研究所所蔵の隋唐石刻拓本を閲覧し、文字の釈読と現代語訳・注釈の作成を行うものである。隋唐時代に関して言えば、これまで大量の墓誌が出土するなど、石刻は歴史研究に不可欠な基本資料である。また、仏教関係の寺碑・塔銘・造像記も多数存在し、そこには非常に貴重な記事も見られる。本研究所所蔵拓本は、近年の新出資料を含まず、よく知られたものが多い。ただし刻文内容については十分な検討がなされていないものも多く、綿密な解読を行うことで新知見の獲得が期待される。

先行の研究班と異なる本研究班の特徴としては、訓読だけでなく現代語訳も行うこと、墓誌や碑文だけでなく、仏教に関わる資料も多くとりあげることである。班員には歴史学・考古学・哲学・思想史・書道史・仏教美術史・文学・語学など、多彩な専門の者が集まることを活かし、文章内容だけではなく、実物の形状や文字の配置・書体・文章の修辞法なども含め多角的な検討を行いたい。

Researchers have been collating and studying this institute's collection of approximately 10,000 stone engraving rubbings over a long period. This research group, carrying on the tradition of the institute's research groups that studied stone rubbings, covering the period from the Han dynasty to Northern dynasties, will view the Sui and Tang dynasties stone rubbings in the collection, decipher and interpret the characters therein, and translate the material from both dynasties into contemporary Japanese and provide annotations.

This research group is different from previous groups in that it will not only read the texts but also translate them into contemporary Japanese. It will not confine its examination to gravestone epitaphs and monument inscriptions but also look at many other materials related

to Buddhism. Taking advantage of group members' diverse specialties—such as history, archaeology, philosophy, intellectual history, calligraphy history, Buddhist art history, literature, and linguistics—we want to conduct multifaceted examinations of, in addition to textual content, the shape of the engraved stones themselves, character placement and style, and textual rhetoric.

５．本年度の研究実施状況

初年度である令和 5 年度は、計 18 回の研究会を開催した。隋代の重要な石刻数点を研究対象にとりあげ、人文研所蔵の拓本以外に数種の拓本画像や著録を比較対照して文字校訂と訳注作成を行った。特に隋王朝の仏教復興政策にかかわる旧北斉地域の碑刻を重点的にとりあげた。基本的に ZOOM を用いたオンラインと対面形式の双方を用いたハイブリッド形式にて開催し、会場が使えない場合などは ZOOM オンラインのみで開催した。ハイブリッド形式は、中国の大学で勤務する班員から日本では入手困難な資料や情報の提供を得られたこと、また、会場では石刻拓本の実物を目の前にし議論をかわすことができるという互いの長所をとりいれることができ、非常に有効であった。7 月には北魏から唐まで見解が分かれている劉賢墓誌の年代考証にかかわり、南開大学の梶山智史氏による研究報告会を開催した。

６．本年度の研究実施内容

2023-04-14 隋代石刻資料の概要　発表者 倉本尚徳
2023-04-28 龍藏寺碑（1）　発表者 倉本尚徳
2023-05-12 龍藏寺碑（2）　発表者 倉本尚徳
2023-05-26 龍藏寺碑（3）　発表者 倉本尚徳
2023-06-09 龍藏寺碑（4）　発表者 倉本尚徳
2023-06-23 龍藏寺碑（5）　発表者 倉本尚徳
2023-07-14 龍藏寺碑（6）　発表者 倉本尚徳
2023-07-28 劉賢墓誌再考　発表者 梶山智史 南開大学　歴史学院
2023-09-22 龍藏寺碑（7）　発表者 倉本尚徳
2023-10-13 曹子建碑（1）　発表者 成田健太郎 文学研究科
2023-10-27 曹子建碑（2）　発表者 成田健太郎 文学研究科
2023-11-24 □静墓誌（1）　発表者 藤井律之
2023-12-08 □静墓誌（2）　発表者 藤井律之　曹子建碑（3）　発表者 成田健太郎 文学研究科
2023-12-22 詔立僧尼二寺碑（1）　発表者 池平紀子 大阪公立大学国際基幹教育機構・現代システム科学研究科
2024-01-12 詔立僧尼二寺碑（2）　発表者 池平紀子 大阪公立大学国際基幹教育機構・現代

システム科学研究科
2024-01-26 詔立僧尼二寺碑（3）　発表者 池平紀子 大阪公立大学国際基幹教育機構・現代システム科学研究科
2024-02-09 王婆羅□造像記（1）　発表者 佐野誠子 名古屋大学大学院人文学研究科
2024-03-08 王婆羅□造像記（2）　発表者 佐野誠子 名古屋大学大学院人文学研究科

７．共同研究会に関連した公表実績
なし

８．研究班員
所内
倉本尚徳、稲本泰生、古勝隆一、永田知之、野原将揮、藤井律之、船山徹、古松崇志、宮宅潔、向井佑介、佐藤智水、打本和音、小野木聡
学内
道坂昭廣(人間・環境学研究科)、池田恭哉(文学研究科)、成田健太郎(文学研究科)、陳錦清(人間・環境学研究科)、于恒超(人間・環境学研究科)、呉皙(人間・環境学研究科)
学外
河上麻由子(大阪大学大学院人文学研究科)、佐野誠子(名古屋大学大学院人文学研究科)、池平紀子(大阪公立大学国際基幹教育機構・現代システム科学研究科)、大西磨希子(佛教大学佛教学部)、高井龍(龍谷大学世界仏教文化研究センター)、戸次顕彰(大谷大学文学部)、村田みお(近畿大学国際学部 国際学科)、石松日奈子(東京国立博物館学芸研究部)、北村一仁(河南農業大学外国語学院)、李瀾(マクマスター大学（カナダ）)、梁爽(南京大学文学院)、岡田和一郎(陝西師範大学外国語学院)、梶山智史（南開大学歴史学院）

9．共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数 総計	受入人数 海外研究者	受入人数 若手研究者（40歳未満）	受入人数 若手研究者（35歳以下）	受入人数 大学院生	延べ人数 総計	延べ人数 海外研究者	延べ人数 若手研究者（40歳未満）	延べ人数 若手研究者（35歳以下）	延べ人数 大学院生
人文研所属	1	12	0	1	0	0	140	0	16	0	0
（内女性）		(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(16)	(0)	(16)	(0)	(0)
京大内（人文研を除く）	2	10	6	0	0	7	95	45	0	0	54
（内女性）		(2)	(2)	(0)	(0)	(2)	(12)	(12)	(0)	(0)	(12)
国立大学	2	4	1	0	1	0	29	1	0	1	0
（内女性）		(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(28)	(0)	(0)	(0)	(0)
公立大学	1	3	0	0	1	0	42	0	0	13	0
（内女性）		(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(29)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学	4	9	0	0	1	0	66	0	0	4	0
（内女性）		(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(23)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関	1	1	0	0	0	0	12	0	0	0	0
（内女性）		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	8	8	5	0	0	4	61	50	0	0	38
（内女性）		(4)	(3)	(0)	(0)	(3)	(33)	(39)	(0)	(0)	(31)
その他 ※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	19	47	12	1	3	11	445	96	16	18	92
		(15)	(5)	(1)	(0)	(5)	(153)	(51)	(16)	(0)	(43)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数０とカウントし、この欄の記載不要											

10．本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数		うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文（単著・共著）	1		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	論集 隋唐仏教社会とその周辺	11	R5.9	玄奘と高宗――智首律師碑の再検討	倉本尚徳

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

なし

12. 博士学位を取得した学生の数

	人数
博士学位を取得した学生の数	**1(学内1)**

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

令和 6 年度も引き続き隋代の石刻を研究対象にして訳注の作成を行う。令和 5 年度に引き続き ZOOM を用いたオンラインと対面形式の双方を用いたハイブリッド形式にて開催する。令和 5 年度は旧北斉王朝の領域に所在する石刻を多く扱ったが、そこには、地域に埋もれる人材を隋王朝が仏教などを利用しいかにとりこんでいくかという、編纂資料ではうかがいしれない地域固有の具体的情報が含まれていた。また。碑文の文章形式には類似した点があり、典故として用いられた仏典にも一定の傾向が見られた。令和 6 年度は、これらの点に注目しつつ読解を進める。具体的には詔立僧尼二寺碑（令和 5 年度の続き)、使持節儀同大將軍昌國惠公寇奉叔墓誌銘などをとりあげ訳注を作成する。また、令和 6 年度も石刻資料を扱った隋唐史研究を行っている研究者に研究報告を依頼する予定である。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

令和 5 年度の研究成果である訳注を整理して東方学報に掲載する。令和 6 年度以降も引き続き毎年訳注の成果を東方学報に公表していきたい。今後は石刻資料の訳注に加えて、訳注の作成により得た知見をふまえた研究報告も行い、将来的には隋唐石刻研究の論文集の出版を目指したい。